23

疳について

川端かおり
日本鍼灸研究会

疳の病證について，『日本国語大辞典』（第2版）には，江戸の滑稽本などを用例にして「①五疳．②癇に同じ．③癇疾に同じ」とあり，「疳のむし」の項には「①食物をむやみに取って消化不良となり痩せる．②かんしゃくを起こす虫」とある．日本では江戸期以降において，“疳の虫”“癇の虫”と表現され，夜泣きや引きつけ，或いは目に影響する病とされた．現代の中国では，『中医大辞典』（第2版）に「脾胃の運化が失常したことによる慢性栄養障害で，5才以下の小児におこる」とあり，夜泣き等は含まれないようである．日本においてのみ，疳と癇は混同された可能性が考えられる．今回は疳と癇の比較の前段階として，疳の病證の歴史的変遷について考察する．

疳は『素問』『霊枢』『難経』『傷寒論』には見られない．『金匱要略』に「小兒疳蟲蝕歯方」の語が見られるが，注に「疑非仲景方」とある．

疳についての体系的な記載は『諸病源候論』に初めて現れる．例えば巻四・虚労病諸候下・虚労骨蒸候，巻十八・湿𪗋諸病・疳𪗋候では，甘味を嗜むことで腸胃に蟲が生じ，府蔵を浸食する病とする．五疳の分類も見られ，白疳，赤疳，蟯疳，疳𪗋，黒疳とする．また巻四十八・小児雑病四・𪗋鼻候，疳湿瘡候では，久利，蔵熱嗜眠，甘美の食などにより病が生じるとする．『千金方』では巻第十五下（脾蔵下）疳湿痢第九に「暑月に多く濃い食事をし，冷たい処で寝ることで起こる」とする．『千金翼方』に疳の記載は見当たらない．

『太平聖恵方』では，疳の詳細な病證説明と，その種類についての記載が有る．これは後代の小児科医書にしばしば引用され，その影響は大きい．巻第八十六・小児五疳論，巻第八十七・治小兒奶疳諸方では，疳を「乳食不調の上で，甘肥を過食することで起こる」とする．五疳は肝心脾肺腎の疳とされ，加えてその予後を記載する（小児五疳可治候論，小児五疳不可治候論）．疳の種類は，五疳のほかに，風疳，驚疳，食疳，急疳，無辜疳，奶疳，干疳，内疳，脳疳，脊疳，眼疳，口歯疳，鼻疳，疳渇不止などを列記する．

北宋の銭乙『小児薬証直訣』小児脈法・諸疳では，「疳は全て脾胃の病であり，大病や吐瀉にて津液が消耗し，脾胃虚弱となり起こる」との説明がみられる．加えて，肝疳，心疳，脾疳，腎疳，筋疳，肺疳，骨疳など各種の疳を載せる．

南宋の劉昉『幼々新書』では，南宋までの疳の記載を集めており，巻二十三・五疳弁治，巻二十四・無辜疳，巻二十五・諸疳異証，巻二十六・諸疳余証に集中して記載されている．多くの引用医書のうち，『太平聖恵方』が最も多数引かれている．

南宋の陳言『三因極一病證方論』では，巻之十一・産後雑病・小児論に「小児の疳病は，乳を止め，ものを食べる時期が早すぎることや，久病により，胃虚し蟲が動ずることで起こる」とする．

明の王肯堂『幼科証治準繩』集之八・脾蔵部下では，疳を「乳哺が終わらないうちに，肥甘や生冷の食物を食べ続け，遂に身熱し体は痩せ，面色は痿黄となる．また肚は大にして青筋が浮き，蟲痛し，瀉利して諸疳が現れる」とする．疳の種類は『太平聖恵方』より多く，冷熱疳，無辜疳，五疳出蟲，蛔疳，脊疳，脳疳，干疳，内疳，外疳，走馬疳，口歯疳，鼻疳，眼疳，疳湿，疳瘡，疳熱，疳労，疳渇，疳嗽，疳積，疳瀉，疳痢，疳痢腹痛，疳腫脹，疳後天柱倒，疳気入陰，虚羸が挙げられている．

［総論］疳は『諸病源候論』にて，腸胃に蟲が生じ，府蔵を浸食する病と規定される．小児の病證よりも，虚労や湿𪗋の記載が中心である．五疳の名が初出するが，後代に見られる五蔵の疳では無い．『太平聖恵方』にて小児の病證として立項され，五疳は五蔵の疳とされた．南宋までに「脾胃の病であり，乳食不調と甘肥の過食に因る」と規定され，疳の病證の基本骨子となった．南宋以後は病證に大きな変化は無く，種類が増加する方向に向かった．